



NEWS RELEASE

2022年7月12日

報道関係各位

CCCマーケティング株式会社
株式会社 T ポイント・ジャパン

【学校総選挙プロジェクト】「2022 参院選」模擬投票結果 若者が期待する政党は「自由民主党」39.6%、「立憲民主党」11.7% 「本当に実現できるのか」を重視する傾向に

CCC マーケティング株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：田代誠）および株式会社 T ポイント・ジャパン（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：杉浦敬太）は、これからの未来を担う中高生世代と政治・社会をつなぐソーシャルプロジェクト「学校総選挙プロジェクト」（<https://youthvote.tsite.jp/>）を取り組んでおり、若者世代の声を世の中に届け、社会が動くきっかけ作りをミッションとしています。

このたび「学校総選挙プロジェクト」では、7月10日に投開票を迎えた「第26回参議院議員選挙」の模擬投票として、2022年6月6日（月）～7月10日（日）までの間、オンライン投票によって全国の10～29歳までの若者世代に対して「期待する政党」について募ったところ、14,024票の投票をいただきました。

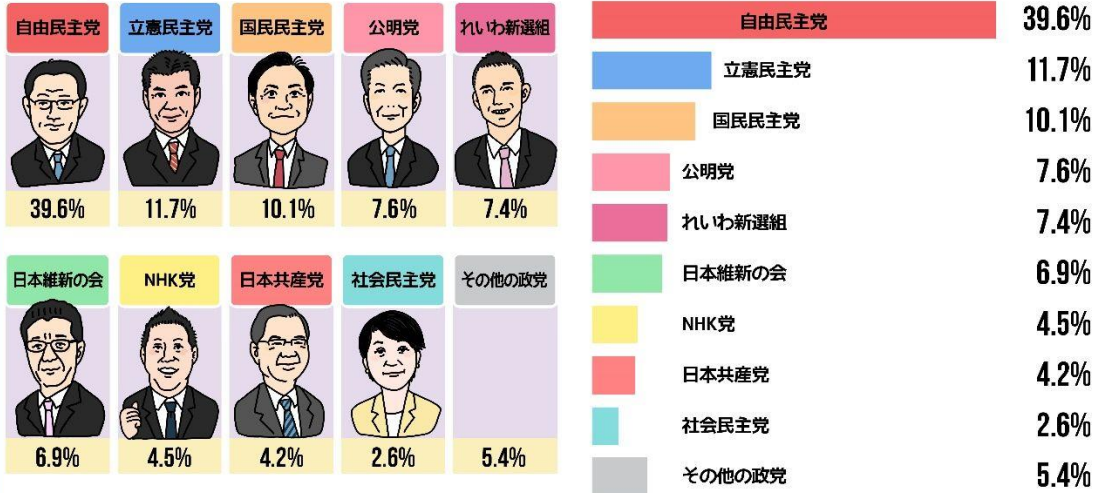
その結果、4割弱の若者が「自由民主党」（39.6%）に投票し、その理由として「岸田政権になって活発的に行動しているのがテレビやニュースなどでよく見かけて、前までの自民党ではなく期待出来る」「日々の言動から他の政党に期待ができないため、自民党が消去法で1番まともな方だと思った」「与党として政策に取り組んできた実績があるため信頼性が高い」などを挙げています。次いで「立憲民主党」（11.7%）に投票した若者が多く、その理由として「日本はまだ女性の地位が低いところがあるけど、立憲民主党は党幹部の半数が女性なので期待できると思った」「教育費の無償化と時限的な消費税の引き下げが実現できそうな範囲で良さそうだから」などを挙げています。続いて「国民民主党」（10.1%）、「公明党」（7.6%）、「れいわ新選組」（7.4%）、「日本維新の会」（6.9%）、「NHKと裁判してる党弁護士法72条違反で」（4.5%）、「日本共産党」（4.2%）、「社会民主党」（2.6%）、「その他の政党」は5.4%の結果となりました。



2022年
参院選

2022年7月 模擬投票結果

「若者が今、期待する政党は？」 自民党 39.6%



投票期間：2022年6月6日～7月10日 集計対象：全国の10歳～29歳 投票方法：インターネット投票（学校総選挙プロジェクトWebサイト内） 有効投票数：14,024票 ©学校総選挙プロジェクト（Tポイント）【Twitter@T_gakkou】

—— 期待する理由 ——

自由民主党 39.6%

岸田政権になって活発的に行動しているのがテレビやニュースなどでよく見かけて、前までの自民党ではなく期待出来る。(20歳・男性)

日々の言動から他の政党に期待ができないため、自民党が消去法で1番まともな方だと思った。(21歳・男性)

与党として政策に取り組んできた実績があるため信頼性が高い。(29歳・女性)

今後も新型コロナウイルス感染防止対策や国の経済的バランス安定に集中してほしい。(15歳・男性)

立憲民主党 11.7%

日本はまだ女性の地位が低いところがあるけど、立憲民主党は党幹部の半数が女性なので期待できると思った。(14歳・女性)

野党の中で数が多く、今の政治をより良く導くために与党を厳しい目で精査して新しい政策を打ち出してほしい。(25歳・女性)

選択的夫婦別姓の導入や同性婚の議論を進めるなど、ジェンダーギャップ解消に向けた取り組みを公約に掲げているため。(27歳・男性)

教育費の無償化と時限的な消費税の引き下げが実現できそうな範囲で良さそうだから。(16歳・男性)

—— 期待する理由 ——

国民民主党 10.1%

経済政策に賛成でき、公約の実現を優先して政治活動を行なっているから。(22歳・男性)

ガソリン価格の引き下げなど具体的な結果を出している。(21歳・女性)

各種の問題にただ賛成や反対しているだけでなく具体的な意見で対応していて、その意見も納得の行くようなものが多いと感じた。(15歳・男性)

積極財政なこと、子供への投資に積極なこと、具体的な政策が多く信用ができる。(22歳・女性)

公明党 7.6%

ジェンダー平等や夫婦別姓に寛容で、教育への支援を厚くしようとしている所に好感が持てる。(21歳・女性)

若者向けのアンケートを実施するというのが書いてあって、若者の意見もしっかり聞いて、改善してくれそう。(15歳・女性)

民衆の味方であり、自民党との連立政権に絶対に必要な存在のため。(19歳・男性)



期待する理由

れいわ新選組 7.4%

山本太郎さんの演説を聞いたから。若者の活躍をメインとした公約が多い。(18歳・女性)

消費税廃止を宣言しているから。とにかく議席を増やしてほしい。(22歳・男性)

良い意味で現在の政治を壊してくれそう。新しい空気が通るだけでも違うのではないと思う。(20歳・女性)

日本維新の会 6.9%

吉村知事の働きが目に見えて分かるから。(25歳・女性)

改革意欲があり、日本の古い政治を変えてくれそう。なおかつ大阪での改革実績があるため。(21歳・男性)

今までの慣習にとらわれない新しい政策をとってくれそう。(22歳・男性)

NHK党 4.5%

NHKのスクランブル放送に賛成だし、政治を考えるきっかけを与えてくれたから。(23歳・女性)

他の政党が具体的になにをしているの知らなかったから。(15歳・男性)

小難しい事を言われても投票率は上がらないと思う。様々な人の注意を引き、政治に興味を持って貰えるやり方に共感したから。(18歳・男性)

期待する理由

日本共産党 4.2%

平和や憲法改正反対を重視しているから。(23歳・男性)

消費税を5%に下げ、最低賃金を1500円にするという考えは消費者に優しい。(17歳・女性)

街で見かけたポスターの「ジェンダー平等」という言葉に注目したため。(21歳・男性)

社会民主党 2.6%

女性が代表だったから。また、男女差別をなくすことに力を入れていることに興味を持った。(14歳・女性)

学費が全て免除になるのは進学生には大変嬉しい。代表が弁護士ということもあり信頼も高く、すごく期待してます。(18歳・男性)

利益よりも国民の生活に寄り添うような政策を掲げているように感じるから。(26歳・女性)

その他の政党 5.4%

参政党。TikTokなどで凄く誠実な演説の切り抜きを見たから。(21歳・男性)

全ての党に期待感はないが、与党一強の現状には不満があるため白票ではなく議席数の少ない政党に票を投じている。(26歳・男性)

今ある有名な政党は口だけで実際に国民のためになるような政治をしてくれなさそうだから。(19歳・女性)

調査期間：2022年6月6日～7月10日 調査対象：全国の18歳～29歳 調査方法：インターネット投票（学校総選挙プロジェクト Webサイト内）有効投票数：14204票
 学校総選挙プロジェクト（ログイン）【Twitter:sknk02】 3/4
 調査期間：2022年6月6日～7月10日 調査対象：全国の18歳～29歳 調査方法：インターネット投票（学校総選挙プロジェクト Webサイト内）有効投票数：14204票
 学校総選挙プロジェクト（ログイン）【Twitter:sknk02】 4/4

期待する理由をテキストマイニングにより分析したところ、一番出現頻度の高い単語が「投票者全体」では『政策』となりました。得票率上位3位の「自由民主党」では『消去法』『岸田』『コロナ』、「立憲民主党」では『無償化』『教育費』『同性婚』、「国民民主党」では『公約』『減税』『経済政策』などのワードが目立ちました。



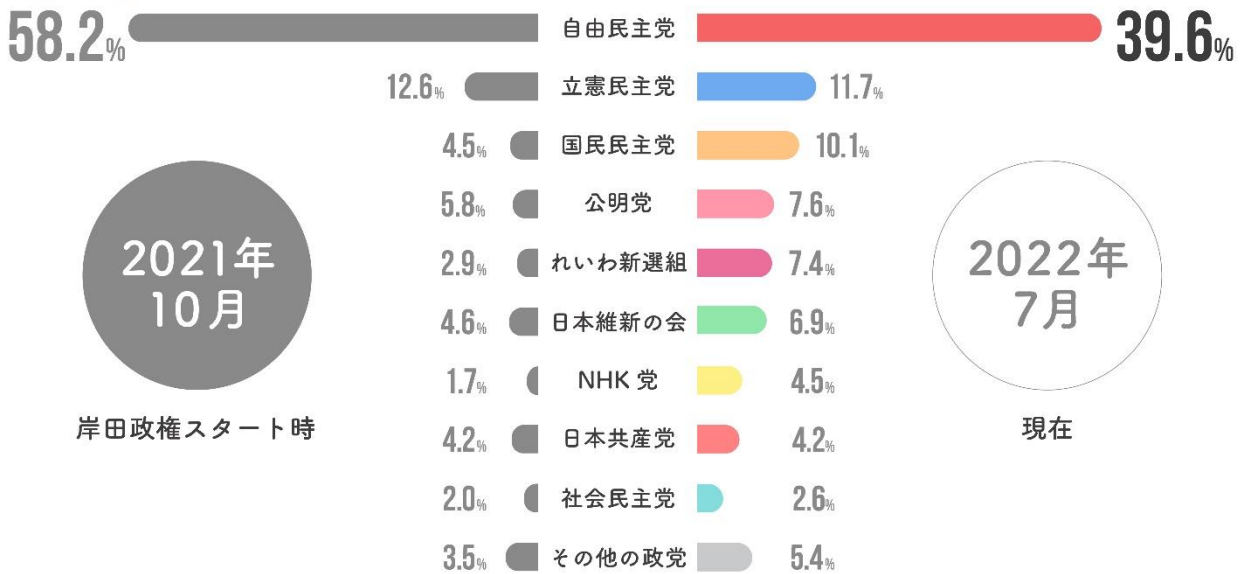
※ユーザローカル テキストマイニングツール(<https://textmining.userlocal.jp/>)で分析



また、岸田内閣が発足した直後の 2021 年 10 月に行った「期待する政党」に関する投票（※1）と結果を比較すると、「自由民主党」は 58.2%から 18.6 ポイント減少の 39.6%、「立憲民主党」は 12.6%から 0.9 ポイント減少の 11.7%、「国民民主党」は 4.5%から 5.6 ポイント増加の 10.1%、「公明党」は 5.8%から 1.8 ポイント増加の 7.6%、「れいわ新選組」は 2.9%から 4.5 ポイント増加の 7.4%、「日本維新の会」は 4.6%から 2.3 ポイント増加の 6.9%となりました。また、「期待できる政党がない」という理由で「その他の政党」を選んだ若者も多く、3.5%から 1.9 ポイント増加の 5.4%まで伸長しました。昨年よりも若者世代の政治への期待感が低下した様子がうかがえます。



衆院選→参院選『期待する政党』の変化



岸田政権スタート時



現在

投票期間：2022年6月6日～7月10日 集計対象：全国の10歳～29歳 投票方法：インターネット投票（学校総選挙プロジェクト Web サイト内） 有効投票数：14,024票 ©学校総選挙プロジェクト（Tポイント）【Twitter: @gakkou】

■「学校総選挙プロジェクト」プロジェクトリーダー・石井大樹からのコメント

今回、各政党を選んだ理由を見てみると、過去 3 回のオンライン投票と比べて具体的な実績や、これまでの取り組みの過程を評価する声が目立っていたように思います。個別政策に関して、考え方への共感だけでなく「本当に実現可能かどうか」も判断材料にしている様子が見えやすくなりました。例えば、具体的な成果や実績が若者にも見えやすかったり、 이슈が明確な政党は前回のオンライン投票（2021 年衆院選タイミング）より得票率を伸ばしています。今回も国政選挙と同じタイミングでの実施だったため、テレビや SNS 等で各党の情報が手に入りやすかったことも影響しているのだと思います。

また同時に、事実ベースで判断する若者たちは政治に対してシビアな目線を持っているようです。実現の方法や、デメリットを提示しない「理想論に聞こえる政策」や、党や候補者のイメージだけの戦略は若者には効果が薄いのかもかもしれません。

CCC マーケティングおよび T ポイント・ジャパンは、「学校総選挙プロジェクト」を通じて、若者が社会課題に主体的に関わり、判断し、実行をしていく「グローバル・シチズンシップ」を育み、SDGs の目標 4「すべての人々への、包摂的かつ公



「正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」の達成につながっていくことを目指してまいります。そして、「UNIQUE DATA, SMALL HAPPY.」をグループミッションに、「T」が「人と社会をつなぐ」存在となることを目指し、引き続き、新たな社会価値創造に取り組んでまいります。

【「期待する政党」に関する投票の概要】

- 投票期間：2022年6月6日（月）～2022年7月10日（日）
- 投票方法：オンラインによる投票
- 投票地域：日本全国
- 投票対象：10～29歳
- 投票数：14,024票

（※1）2021年10月「期待する政党」に関する投票概要 https://www.ccc.co.jp/news/2021/20211110_002223.html

- ・投票受付期間：2021年9月13日（月）～10月31日（日）
- ・投票方法：オンラインによる投票
- ・投票地域：日本全国
- ・投票対象：10～29歳
- ・投票数：30,572票

【「学校総選挙プロジェクト」概要】

- プロジェクト名：学校総選挙プロジェクト
- プロジェクトサイト：<https://youthvote.tsite.jp/>
- プロジェクト開始日：2020年10月13日（火）
- プロジェクト内容：「学校総選挙プロジェクト」は、CCCの創業意図「若者に新しい生活スタイルの情報を提供する拠点を提供していく」をアイデンティティに、これからの未来を担う若者が、これからの未来を生きていく糧となる新たな発見や考え方を共創していく「場」です。中高生から20代の若者世代に向けて、政治や社会課題から進学、学校など幅広い領域から、これからの若者世代に関わる課題をテーマアップし、その問題提起した課題についての中立的な情報と同世代が対話を深める場を提供します。WEBサイトで実際に「投票」することで、中高生世代の一人一人が主体的に関わり、意思表示できる機会を作ります。そして、中高生の「声」をまとめた投票結果のレポート記事や、有識者へのインタビュー記事などをnote上で掲載したり、オピニオンリーダーを迎えての企画や対話の場なども提供をしています。
- Twitterアカウント：学校総選挙プロジェクト【公式】 https://twitter.com/T_gakkou
- noteアカウント：学校総選挙プロジェクト【公式】 https://note.com/t_gakkou

本件に関するお問い合わせ：

CCCマーケティング株式会社／株式会社Tポイント・ジャパン

広報

TEL：03-6800-4464